

# 北斎 かわらばん

第二十二号



北斎の描いた花鳥画の世界

〜芥子〜

「芥子」(大判錦絵) 天保(1830~44)初年頃

花びらの細かな描写や風の表現、薄藍の背景には、当時流行していた、沈南蘋<sup>しんなんびん</sup>という中国の画家が伝えた西洋風の表現が取り入れられています。この絵を描いた頃、北斎は七〇歳を越えていましたが、新しい

爽やかな薄藍<sup>うすあゐ</sup>を背景に、芥子<sup>けし</sup>が描かれています。本図では、芥子の花のふつくらとした丸みは強調されず、花や葉はぎぎぎぎとした線で縁<sup>かち</sup>どられて、その線は見るものの眼を刺激し、大きな弧を描いたわむ茎<sup>くき</sup>と共に、強い風にさらされた芥子が今にも吹き飛ばされてしまいそうな緊張感を伝えます。芥子の花びらには、ひだを表す細かな線が描かれ、リアルな質感が表現されています。

表現にも積極的にチャレンジしていたことがわかります。本図は、全十図の花鳥画シリーズのうちの一図です。このシリーズの流行が一因となり、錦絵において花鳥画が盛んに出版されるようになりました。



強い風に芥子があおられている様子

【発行】  
墨田区区民活動推進部  
文化振興課  
北斎美術館開設担当  
(墨田区役所1階)  
☎03-5608-6115  
【編集協力】  
(公財)墨田区文化振興財団  
北斎事業課





北斎さんは  
どんな  
人?

作品に全力を  
注ぎ

北斎には  
知られざる  
意外な一面がありました

お酒

を遠ざけた人

今回はお酒に  
まつわるお話を  
紹介します

### お酒が大人気

前回「自分で薬を作る人」のコーナーの中で「北斎は酒も飲まず、タバコも吸わなかった」という言い伝えを紹介しましたが、今回はその中のお酒に関するお話をします。

北斎が活躍した文化文政（一八〇四〜一八三〇）頃は、江戸時代を通してお酒の消費量が最多でした。毎年上方から百万樽前後のお酒が江戸へと運ばれていました。当時江戸の人口は約百万人と伝えられているので、一人一樽（四斗<sup>と</sup>約七十二リットル）を年間消費していたことになります。

当時の文化人たちもお酒を嗜んでおり、酔い心地で詩や文、絵を創作するといったこと

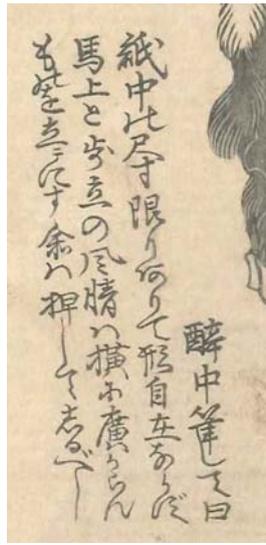


図1 『画本武蔵鑑』より「上杉輝虎入道兼信 武田晴信入道信玄」  
右下に、酔中に筆をとったが紙幅に限りあり、納得の出来ではないとの書き入れがあります。

### 飯島虚心の調査

とも珍しいことではありませんでした。

「そんな時代に北斎がお酒を飲まなかったなんて信じら

飯島虚心です。

研究家などに聞き取りを行っ

れない」と考えて調べた人がいます。それは、前回も紹介した『葛飾北斎伝』の著者である

虚心が北斎に精通した人や

たところ、図1のように北斎の画面中に「酔中」（酔つ払っている状態）と記されている例もあることからお酒を飲んでいたと考える人もいました。しかし、それは北斎が、自分の作品の仕上がりに納得がいかなかったときの言い訳に使っていたとみる人の方が多く、大かたが飲酒はしていなかったと考えたそうです。

そして虚心は、北斎と親交の深かった柳亭種彦が『北斎漫画』十一編の序で「酒を嗜まず茶を好ず」と記していることを発見し、お酒を飲まなかったと結論づけています。



図2 「無題狂句入り戯画集 樽ぬきのやうでしぶぶ物をい」  
酔っ払いの生色が面白おかしく表現されています。

### 絵に対する真剣な姿勢

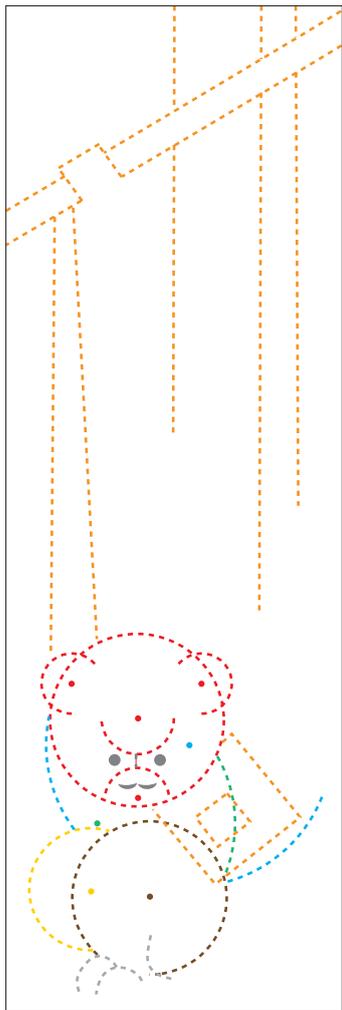
ただし、北斎が祭屋台の天井画を担当したとき、発注者に宛てて「職人たちとともに棟上げを祝して一杯やりたいから、つまみは豆腐と卵ぐらいがいいのでお願いします」と書いた手紙が残っていることや、図2の「風流おどけ百句」をはじめ、酔っ払いの生態を描いた作品も多い上、前回紹介した北斎の葉には、極上のお酒が用いられていることなどを考えると、全くお酒を受けつけない体質ではなかったと考えられます。

お酒を飲むことができたにもかかわらず、口にしなかったのは、絵を描くために禁酒をしていたからなのではないでしょうか。約九十年の生涯、真剣に絵と向き合った北斎の姿が目に見えます。



今号も引き続き『略画早指南』から、定規とコンパスを使って絵を描いてみましょう。

今回の手長猿は、円と直線だけでなく、四角も使われています。①は円と直線に四角を加えた、描き方の図解です。②はそれをもとに描いた枝にぶら下がる手長猿で、細かい部分も描きこんだ完成図です。①②を参考に、③の小さな点にコンパスの針を立て、点と同じ色の線をなぞってみましょう。左腕と枝にぶら下がって、右手は四角



③

を、長い腕と枝と幹は定規を使って描きます。他の部分は①②を参考になぞってください。最後に、幹には苔、枝に葉っぱを、猿にはふわふわの毛を描き加えましょう。かわいい手長猿が描けましたか？

# てながさる 手長猿 か 描こう



②



①

## すみだと北斎



関東大震災以前の本所南割下水

北斎は宝暦十年（一七六〇年）九月二十三日、現在の北斎通りにあたる本所南割下水と呼ばれた地域で生まれたとわれています。明治期に聞書きを記録した飯島虚心著『葛飾北斎伝』の中に「北斎は、宝暦十年九月本所割下水に於きて生る」とあります。本所には南と北の二つの割下水という名の通りがありま

### 北斎は南割下水（現・墨田区）生まれ

したが、たんに割下水という場合は南割下水をさしました。この名称は、道路の中央に掘割（地面を掘って作った水路）が設けられていたことに由来します。北斎の他にも、柳亭種彦（戯作者）、鳥文斎栄之（浮世絵師）、三遊亭円朝（落語家）、河竹黙阿弥（歌舞伎作者）などは、江戸の庶民文化を代表する人々ともゆかりがある場所です。

北斎は生涯で九十三回引越をしましたといわれていますが、そのスタート地点が南割下水になります。すみだ北斎美術館は、北斎の生地である北斎通りに面した緑町公園内に建設されます。

むすぶ“北斎”  
ひろがる“すみだ”

## 「ぱらぱら北斎 漫画カフェ～北斎を知ろう」を開催します

すみだ北斎美術館の開館に向け、より多くの方々に北斎に親しんでいただくために「ぱらぱら北斎 漫画カフェ～北斎を知ろう」を開催します。北斎の代表作の一つである『北斎漫画』をはじめ、北斎が手掛けた幅広い絵手本の世界を紹介します。また、オリジナルに忠実に作成した絵手本のレプリカを手にとって鑑賞できるスペースも設けます。

どうぞご期待ください。

- 開催日時 10月10日(木)～10月23日(水) \*会期中無休  
午前10時～午後6時(入場は午後5時半まで)
- 会場 すみだリバーサイドホール ギャラリーほか
- 観覧料 無料
- 問い合わせ “すみだと北斎”プロモーション実行委員会(文化振興課北斎美術館開設担当内)  
☎ 03-5608-6115

※ 毎日、先着50人の方にノベルティグッズを進呈します。



『北斎漫画』十二編

## 「北斎祭り2013」を開催します

「北斎祭り実行委員会」では、北斎ゆかりの亀沢地区において、北斎の魅力や面白さを内外に広めるべく、毎年10月に「北斎祭り」を開催しています。今年も10月の最終週に「北斎祭り2013」が行われます。

昨年の「北斎祭り2012」

では、ろうそくを入れた透明のビンで街中を彩った「灯りのフェスティバル」や保育園児たちが描いた立派な作品の展示を行い、大いに盛り上がりました。

今年も様々な企画をご用意されていますので、この機会に是非お立ち寄りください。

### 開催日時

10月26日(土)  
午後1時～午後8時

10月27日(日)

午前10時～午後4時

墨田区亀沢地区周辺

北斎通りまちづくりの会 事務局

☎ 03-3624-3939

### 会場

### 問い合わせ



園児たちが描いた芸術作品



色付きのビンで富士山を表現

すみだ発!  
**北斎**  
オリジナルグッズ  
⑤

株式会社片岡屏風店  
からくり屏風

墨田区では、区内でものづくりに携わる方々の商品開発の一助となるように、すみだ北斎美術館(平成二十七年年度開館)に収蔵する北斎作品の画像を商用目的でご利用いただく事業を行っています。

今回、紹介する「すみだ発!北斎オリジナルグッズ」は、北斎作品の画像をプリントしたからくり屏風です。からくり屏風とは、二枚の板をめくることで、絵柄が変わっていく不思議な屏風です。子供から大人まで楽しめるすみだならではのユニモアあふれる一品です。

なお、現在区内事業者を対象に、北斎作品画像の無料貸し出しを行っております。詳しくは、(公財)墨田区文化振興財団までお問い合わせください。

【商品に関する問い合わせ】

株式会社片岡屏風店

☎ 03-3622-4470

【画像利用に関する問い合わせ】

(公財)墨田区文化振興財団

北斎事業課

☎ 03-3829-4122



下記ホームページでは、すみだ北斎美術館のダイジェスト映像や、無料でダウンロードできるスクリーンセーバーなどもご用意しております。是非、ご覧ください。

<http://hokusai-museum.jp>